

令和8年度事業（案）

〈概要〉

令和8（2026）年は、會津八一が1956(昭和31)年11月21日に亡くなって70年を迎える。それを節目とする展覧会や関連事業を「没後70年」と銘打って企画する。

〔特別展〕會津八一が「酷愛」した奈良をテーマとする。1908（明治41）年、27歳のときに初めて訪れた奈良で出会った古美術写真家・工藤利三郎、1922（大正11）年に創業した古美術写真の専門店・飛鳥園の作品や、奈良の寺院に残る八一の扁額、歌碑の写真なども合わせて紹介する。

〔企画展〕春は動植物を愛でた八一の姿をテーマに、自然にまつわる自詠の短歌や中国の漢詩を揮毫した書作品などを展示する。夏は、八一のかな書と同時代の俳人・正岡子規や版画家の棟方志功らのかな書を展示。八一の書がひらがなを主体とした独特なかな書に至るまでの変遷と、かな書の多様な表現を紹介する。冬は令和5年から8年にかけて、新たに収蔵した八一作品や資料を精選し、既存の所蔵品とともにお披露目する。

〔普及活動〕八一没後70年事業として①新潟市内の中学校教職員向けの研修「はじめての會津八一」講座を予定している。これは、教職員が新潟市名誉市民である八一の人となりや業績に触れることで、こどもたちにも八一の存在を認識してもらうきっかけとする。②書に親しむ体験講座「會津八一の歌を書く」と、令和6年度に実施した講座で、参加者からの要望が強かった「篆刻体験講座」の開催。③八一のいしぶみ巡り。これまで新潟市中心部にある八一の歌碑や文化人の石碑を徒歩で巡ってきたが、8年度は新潟市の「動く市政教室」バスを利用して、広範囲に市内の八一歌碑巡りなどを開催する。そのほかに、恒例となった新潟県内の高校書道部員を対象とした「高校生拓本大会」、俳優松村雄基氏と新潟大学角田勝久教授によるトークイベント第7弾、第20回を迎える写真コンテストと入賞入選作品の全国巡回展なども計画している。

八一が亡くなってから70年が経過し、ますます八一を知る人が少なくなっている。後世に彼の人物像や業績を伝えていくために、さまざまな機会をとらえて、若い世代にも親しんでもらえるよう企画、運営に努めていきたい。

〈事業計画の内容〉（3企画展197万円 特別展280万円）

（ア）展覧会事業 開館日数 280日

	分類	展覧会名（仮称）	会期	内容
1	企画展	没後70年 會津八一 自然を愛でる	4月1日（水） ～6月21日（日） 71日間	會津八一は、雅号を「秋艸道人」と名付けるほど草花を好み、関心を持っていた。生涯にわたり菊や葉鶏頭などの植物を栽培し、短歌や随筆で著している。本展では自然にまつわる短歌や、漢詩を揮毫した書画作品を中心に、八一の自然観、観察眼が表れた作品資料を紹介する。
2	企画展	没後70年 會津八一とかな書の魅力	7月1日（水） ～9月23日（水祝） 74日間 ※一部入れ替えあり （8/18～9/23）	八一の書の特徴の一つに、自作の歌をひらがなで揮毫した「かな書」がある。八一のかな書は、一文字一文字噛みしめながら余白への響きを感じさせて書いたもので、鑑賞者が声に出して詠むことを意識した書きぶりである。このかな書の特徴を際立たせるために、八一とゆかりのある歌人（良寛、正岡子規など）や芸術家（棟方志功など）らのかな書も展示。
3	特別展	没後70年 會津八一 奈良の美を巡る	10月1日（木） ～12月6日（日） 59日間	奈良を「酷愛」した會津八一は、明治41（1908）年8月、27歳の時に初めて奈良を訪れ、歌人、書家、美術史研究者として第一歩を踏み出している。昭和28（1953）年の文芸評論家・亀井勝一郎とのラジオ対談「奈良の思ひ出」で取り上げられた八一の奈良歌や、寺院に残る八一の扁額など、奈良ゆかりの名品を展示する。あわせて、工藤利三郎や飛鳥園・小川晴暘の写真から、八一が見た奈良を紹介する。
4	企画展	没後70年 新たなる出会い-新収蔵品展 同時開催 第20回會津八一の歌を映す 写真コンテスト入賞入選作品展	12月18日（金） ～令和9年3月22日（月祝） 76日間	令和5年から令和8年にかけて、新たに当館が収蔵した會津八一作品資料を中心にお披露目する。新潟市の老舗骨董商「山十」旧蔵の會津八一の墨蹟29点をはじめ、新潟日報社編集局長などを歴任した小柳誠氏旧蔵の八一の墨蹟や書簡、茶道・江戸千家前家元川上名心氏旧蔵の八一書《しかなきて》《とほつよの》などを展示。

展示替えのための休館日	6/22～6/30(9日間)、9/24～30(7日間)、12/7～17(11日間)
作品解説会	企画展 期間中 月2回（第2、4日曜日）午前11時 特別展 期間中 毎週日曜日 午前11時

(イ) 普及活動 ※交渉予定も含む

新設〔教職員研修〕

教職員のための「はじめての會津八一」講座(対象:新潟市内の中学校教職員)

- ・ 會津八一の人となりや業績に触れることで、新潟の偉人の存在を知る
- ・ 学習教材としての活用例を挙げ、子どもたちへの浸透、顕彰を狙いとする

内 容: 展示解説と自由見学+講義・意見交換 (約2時間)

日 程: 夏季= 令和8年7月29日(水) 午後2時~4時10分

冬季= 12月下旬 を予定

〔出前講座〕

3月には上記研修会への参加要請と同時に、市内全校長に出前講座や巡検への参加をお願いする。この他にも會津八一の作品を所蔵している、あるいは団体鑑賞でよく記念館を利用している学校や公民館などに向けて、4月に出前講座の案内を送り、依頼のあるところから実施

〔講演会〕(120万円)

特別展記念講演会

講 師: 井上さやか氏(奈良県立萬葉文化館 企画・研究課 企画・研究係)

演 題: 未定

日 時: 令和8年10月下旬か11月中旬

会 場: メディアシップ 日報ホール

定 員: 120名

参加費: 1,000円

特別展記念トークイベント

出演者: 松村雄基氏(俳優、書家)、角田勝久氏(新潟大学教授)

内 容: 未定

日 時: 令和8年10月10日(土) 午後2時~3時半(予定)

会 場: メディアシップ 日報ホール

定 員: 120名

参加費: 1,500円

文芸講演会

春

講 師: 中本真人氏(新潟大学教授)

演 題: 新潟市が結んだ會津八一と中田瑞穂

日 時: 令和8年5月12日(火) 午後2時~3時半(予定)

会 場: メディアシップ 日報ホール

定 員: 120名

参加費: 500円

夏

講 師: 角田勝久氏(新潟大学教授)

演 題: 會津八一とかな書について(仮題)

日 時: 令和8年7月20日(月祝) 午後2時~3時半(予定)

会 場: メディアシップ 日報ホール

定 員: 120名

参加費: 500円

冬

講 師: 貴田正子氏(ノンフィクションライター、元産経新聞記者) 検討中

演 題: 未定

日 時: 令和9年2月か3月初旬 を予定

会 場: 未定

定 員: 未定

参加費: 未定

八一祭記念イベント

内 容: 高校生拓本大会(左野勝司氏制作の八一書の石版をもとに)

日 時: 令和8年7月31日(金)(予定)

会 場: メディアシップ 日報ホール

〔学習講座〕 書の体験講座 ①「會津八一の歌を書く」

講 師：田中藍堂氏（新潟県書道協会副理事長）と
狩野芳明氏（新潟県書道協会事務局長） 検討中
日 時：令和8年 秋を予定
会 場：新潟日報カルチャースクール教室
定 員：未定
参加費：未定

②「篆刻体験講座」

講 師：佐藤雄司氏（新潟県立新潟向陽高校教諭）と
小川貴史氏（新潟県立新潟東高校教諭）
日 時：令和9年2月か3月中
会 場：新潟日報カルチャースクール教室
定 員：25名
参加費：2,000円（検討中）

會津八一の歌を読む会「かまづかの会」

講 師：若月忠信氏（文芸評論家）
日 時：毎月第1土曜日 午後1時30分～3時
会 場：砂丘館
人 数11人

〔文学散歩〕 會津八一のいしぶみ巡り(新潟市内) ※新潟市の主催事業

コース：新潟市内の八一の石碑やゆかりの地を中心にめぐる
（新潟市の市政バスを利用）
日 程：令和8年6月14日（日）
時 間：午前10時半～午後4時半
定 員：30人
参加費：1,000円（新潟市への支出はゼロ）

〔公 募〕

「會津八一の歌を映す」第20回秋艸道人賞写真コンテスト（270万円）

- ① 令和8年4月 :ポスターと応募要項の制作と発送
- ② 11月中旬 :締め切り
- ③ 11月下旬 :審査・結果発表
- ④ 令和9年3月上旬 :表彰式

〔巡 回 展〕

第19回「會津八一の歌を映す」写真コンテスト巡回展

いかるがホール（奈良県斑鳩町）	4月1日～4月20日	入賞作品7点＋県外入選者
奈良県立図書情報館	5月1日～5月17日	入賞入選30点
中村屋サロン美術館	6月3日～7月12日	入選入賞30点
三千院	8月予定	入賞作品7点
高松市市民活動センター	10月予定	入賞入選30点、複製作品
胎内市産業文化会館	11月予定	入賞入選30点

〔そ の 他〕

鑑定会 春秋2回を予定（24万円）

春の部

日 時：令和8年6月6日（土）を予定 午後1時30分～3時

会 場：會津八一記念館

秋の部：未定